

## 令和7年度宇都宮大学工学部外部評価結果報告書

### I. 実施概要

#### 1. 外部評価実施手順及びスケジュール等

- (1) 書面審査 令和7年8月7日（発送）～8月31日  
「令和7年度 外部評価 自己点検・評価書」及び「令和7年度宇都宮大学工学部外部評価説明資料」に沿って審査された。
- (2) 外部評価ヒアリング  
1回目：令和7年9月2日（火）13：00～15：00 佐藤之彦 委員、星野弘光 委員  
2回目：令和7年9月3日（水）15：30～17：30 飯塚真規 委員、山田 純 委員  
工学部委員より、自己点検・自己評価書の内容について、外部評価説明資料を用いて説明を行ったあと、評価ワークシートの各項目について評価頂いた。なお、評価点は1点（劣っている）、2点（やや劣っている）、3点（妥当である）、4点（優れている）、5点（非常に優れている）の5段階評価とした。最後に、評価結果及び講評を頂き、評価できる点や改善を要する点等の意見を頂いた。

#### 2. 外部評価委員 名簿

千葉大学大学院工学研究院教授	佐藤之彦 委員
栃木県産業技術センター所長	星野弘光 委員
株式会社 TKC 代表取締役社長	飯塚真規 委員
芝浦工業大学学長	山田 純 委員

#### 3. ヒアリング出席者（学内）

杉原興浩 学部長、古神義則 副学部長、平田光男 評議員、入江晃亘 教授、馬淵豊 教授、古澤毅 教授、長谷川まどか 教授、ヘーガンネーザン 教授、辻浦清志 事務長、石田浩司 事務長補佐、中田佐江子 係長

### II. 評価結果

#### （教育）

#### E1 教育プログラムの高度化と学習の質保証の向上

##### E1-1 コース配属ミスマッチの防止策（評価点平均：4.75）

#### ○注目される点

- ・ 2024年度から一般選抜（前期日程）、学校推薦型選抜、総合型選抜で化学系と機械・情報電子系に分けて選抜を実施することで、第一希望コースへの配属率が99%に向上している。
- ・ 入学後も、授業科目「新入生セミナー」「コース入門」や修学支援アドバイザーを配置するなど、適切なコース選択に向けた対応が取られている。

## E1-2 教育プログラムの検証（評価点平均：4）

### ○注目される点

- ・ 1年次と3年次に実施しているジェネリックスキル測定テストや、学生総合調査により、学修成果の見える化を通して把握、分析している点。
- ・ 宇大スタンダードの獲得状況が良好である点。

### ○改善を要する点

- ・ 専門分野における学修成果の検証や、地域や産業界のニーズの取り込みについては、組織的な取り組みを検討されることを期待したい。
- ・ 今後は、プログラム中のどの教育が、宇大スタンダードの獲得状況の向上に効果があったかなどを分析され、プログラムの改善に役立てることが望まれる。

## E2 高度人材育成の推進

### E2-1 学部-大学院6年一貫教育の実施（評価点平均：4.5）

#### ○注目される点

- ・ 1年次から6年間を見据えたキャリア教育が実施されている点。
- ・ 成績優秀者を対象とした早期研究室配属制度を実施して研究活動に対する意識喚起を行っており、その人数が増加傾向にある。
- ・ 6年一貫教育を前提とした履修と早期配属の取り組みは、学生にとって大学院進学の大きなモチベーションになる。

#### ○改善を要する点

- ・ 現状でもかなり高い進学率をさらに伸ばそうとして、6年一貫教育を強く打ち出しすぎると、受験生に敬遠されるという懸念が生じる。
- ・ 6年一貫教育のメリットを活かしたカリキュラムがデザインされることが望まれる。

### E2-2 協定校と連携したグローバル人材育成の推進、新たな海外交流事業の開拓

（評価点：3.25）

#### ○注目される点

- ・ マラヤ大学との共同でのグローバル人材育成を推進し、受賞や対外発表につなげている点。

#### ○改善を要する点

- ・ 海外の連携先の開拓など、参画する学生の増加に向けた検討に期待したい。
- ・ 成果は出ているものの、海外交流そのものに積極的ではないように思える。
- ・ 学部として、どの程度グローバル化を推進していくかが自己点検・評価書からは読み取れなかった。戦略を明確化し、KPIを定めるのも一つと感じる。

## E3 学生確保の取組評価

### E3-1 戦略的広報活動を通じた学生確保の取組強化（評価点平均：4.75）

#### ○注目される点

- ・ 高校訪問チームを設立し、戦略的な広報活動を展開している。

- ・ オープンキャンパスの充実、受験生を意識した HP やパンフレットのリニューアル、工学部紹介動画の作成に加え、高校生向け体験講座の実施など、多面的な取り組みを積極的に実施しており、志願倍率が堅調に増加しつつある。
- ・ 女子学生獲得に向けた活動を通して、女子学生比率が着実に増加している。また、保護者へのアプローチは大変優れている。

○改善を要する点

- ・ 配慮が必要な学生へのサポートのさらなる強化を望む。

○その他意見

- ・ 女子枠の入試などは検討しないでしょうか？
- ・ 学生確保の取組にさける予算は十分でしょうか？

(研究)

R1 新たな強みの開拓と社会との共創に資する研究の強化 (評価点平均：4.25)

○注目される点

- ・ 工農連携や医用生命工学などの重点分野を定め、部局ミッション達成経費を活用した研究助成を実施し、研究成果を上げている。
- ・ 研究活動で優れた教員に卓越教員の称号を与え、研究に集中する環境を与えている。
- ・ 日本で唯一の光工学の学位を授与できる特徴を踏まえ、学部においても光工学に関する体系化したカリキュラムを構築し、オプティクス教育研究センターにおける活発な研究活動を展開するとともに、学内ベンチャーを設立し社会実装につなげている。
- ・ 地域発のオープンイノベーションを積極的に先導し、成果を上げている。

○改善を要する点

- ・ 社会との共創において、毎年着実に成果を出していることは評価できるが、他大学との比較あるは平均値との差異で表現するなど、成果を際立たせるレポートがあるとなお良いと考える。
- ・ すでに光工学という研究分野として特色を打ち出しているが、それをさらに強化する具体的な取り組みがあると良い。

○その他の意見

- ・ 社会との共創を進めるには、教員だけでは十分でなく、事務的な支援も必要である。支援体制は十分でしょうか？
- ・ 新たな研究分野の開拓には教員の増員や施設・設備の補強も必要である。そのための予算の獲得について検討が必要。

R2 研究力の強化と研究支援体制の拡充 (評価点平均：4.25)

○注目される点

- ・ 大型・高額装置の共用化を推進して有効利用を進め、論文や特許などの研究成果につなげている。
- ・ 受託・共同研究費獲得に関する情報や大型受託・共同研究費獲得に向けた取り組みを共

有して意識付けを行い、研究資金獲得につなげている。

- ・ 若手教員の研究支援を実施し、科研費採択や論文発表につなげている。
- ・ 国際学術誌への投稿や国際会議の参加への支援を実施しており、発表数の増加につなげている。
- ・ 産学連携により研究実績を挙げている。また、光工学分野は宇大工学部の強みであり、地域産業との連携が進んでいる。
- ・ 資金的に厳しい状況にも関わらず、相当の研究支援を実施している点を高く評価する。

#### ○改善を要する点

- ・ 県内唯一の国立大学である点を考慮すると、授業料の値上げを行い、さらに研究支援に資金を投入できるようにすべきではないかと考える。
- ・ 運営費交付金はかなり減らされている中、研究支援は大変であるが、URA や産学コーディネータの充実、事務補佐員の増強の予算が足りていないと考えられる。
- ・ 講座制から研究室制に移行していると思うが、そうすると研究室運営がワンオペ状態になって、教員個人が研究に十分なエフォートをさくことが難しくなる。この対策の検討が必要と感じる。

### III. 各委員からの講評の要旨

工学部における取組は、教育・研究の双方において、規模を勘案しても手厚くきめ細かな支援が継続され、学生支援および若手教員の支援・育成が具体的成果に結びついている点が高く評価できる。研究支援の体制も想定規模を上回る水準で整備され、全体として施策の実効性と着実な成果創出が確認できる。

一方、さらなる発展に向けては、地域ニーズを体系的に収集・反映する仕組みの強化、自治体・産業界等との協働の一層の拡充、ならびに研究人材育成と地域課題解決を連動させる循環の明確化が求められる。加えて、女子学生比率の向上や女子学生のサポートだけでなく、多様性・包摂への対応も重要であり、全学的取組として強化することが望まれる。学修成果の検証については、現行手法では把握しきれない部分が残ることから、指標の精緻化と評価枠組の高度化が必要である。提出資料の数値データ等は、指標定義、時系列推移の一貫提示などにより、より客観的な評価を可能とする提示方法の充実が望まれる。さらに、取組の持続可能性の観点から、授業料の見直し等を含む財政基盤の強化は必要不可欠であり、急務である。

総じて、現状の強みを基盤に、地域連携の深化、多様性・包摂の推進、教育効果の検証とエビデンスの充実、そして財政の強靱化を通じて、一層の発展が期待される。

#### IV. 改善を要する点及びその対応策

##### (教育)

改善を要する点	対応策
<p>専門分野における学修成果の検証や、地域や産業界のニーズの取り込みについては、組織的な取り組みを検討されることを期待したい。</p>	<p>専門分野における学修成果の検証については、工学部 IR チームで検討を行う。地域や産業界のニーズの取り込みについては、本学の産学官連携部門である地域創生推進機構社会共創促進センターと連携を取りながら進める。</p>
<p>今後は、プログラム中のどの教育が、宇大スタンダードの獲得状況の向上に効果があったかなどを分析され、プログラムの改善に役立てることが望まれる。</p>	<p>工学部 IR チームによる調査分析結果や各種アンケート結果等の既存データを基に、科目と宇大スタンダードの対応関係を整理し、学修成果との関連を段階的に検証する。また、各コースの FD においてこれらの結果を共有し、教育プログラムの継続的な改善につなげる。</p>
<p>現状でもかなり高い進学率をさらに伸ばそうとして、6年一貫教育を強く打ち出しすぎると、受験生に敬遠されるという懸念が生じる。</p>	<p>敬遠されることの無い様、学生への広報および進路指導について工夫する。</p>
<p>6年一貫教育のメリットを活かしたカリキュラムがデザインされることが望まれる。</p>	<p>地域創生科学研究科と連携を密にして、6年一貫教育のメリットを活かしたカリキュラムの構築を推進する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の連携先の開拓など、参画する学生の増加に向けた検討に期待したい。</li> <li>・成果は出ているものの、海外交流そのものに積極的ではないように思える。</li> </ul>	<p>各教員が有する海外ネットワーク等を活用することで、学生の海外留学や、教育・研究両面で海外交流できる機会を増やす。また、留学生・国際交流センターと連携して、海外交流を促進する。</p>
<p>学部として、どの程度グローバル化を推進していくかが自己点検・評価書からは読み取れなかった。戦略を明確化し、KPI を定めるのも一つと感じる。</p>	<p>本学世界展開力強化事業 (UU-A) への工学部教員の参画や、全学で採択された内閣府「戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業」への取組を通じて、グローバル化を推進する。</p>
<p>配慮が必要な学生へのサポートのさらなる強化を望む。</p>	<p>宇都宮大学 DE&amp;I 推進センターとの連携により、配慮が必要な学生へのサポートを充実・強化に努める。</p>

(研究)

指摘事項	対応策
社会との共創において、毎年着実に成果を出していることは評価できるが、他大学との比較あるは平均値との差異で表現するなど、成果を際立たせるレポートがあるとなお良いと考える。	本学の産学官連携部門である地域創生推進機構社会共創促進センターと連携し、社会共創に関する成果整理・発信方法について検討を行う。
すでに光工学という研究分野として特色を打ち出しているが、それをさらに強化する具体的な取り組みがあると良い。	令和7年度に採択された内閣府「戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業」を通じて、光工学の研究分野をさらに強化する。
県内唯一の国立大学である点を考慮すると、授業料の値上げを行い、さらに研究支援に資金を投入できるようにすべきではないかと考える。	本学執行部へ検討を依頼する。
・運営費交付金がかなり減らされている中、研究支援は大変であるが、URA や産学コーディネータの充実、事務補佐員の増強の予算が足りていないと考えられる。 ・講座制から研究室制に移行していると思うが、そうすると研究室運営がワンオペ状態になって、教員個人が研究に十分なエフォートをさくことが難しくなる。この対策の検討が必要と感じる。	内閣府「戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業」を活用し、URA や産学コーディネータ、事務補佐員の充実を図る。また、教員が担当する教務関連等の業務を担当する UEA (University Education Administrator) の導入を検討する。さらには、若手研究者の授業負担が軽減できるよう、授業科目の精選を行う。

以上